

『チャーリー・モルデカイ～華麗なる名画の秘密～』

原題 MORTDECAI



(C) 2015 Lions Gate Entertainment Inc. All Rights Reserved

映画批評

チャーリー・モルデカイ～華麗なる名画の秘密～』 原題: MORTDECAI

塚田三千代

原作は英国のキリル・ボンフィリオリ Kyril Bonfiglioli (1928-1985)のユーモア・スパイ冒険小説『チャーリー・モルデカイ1. 英国紳士の名画大作戦』である

イギリス・オックスフォードを起点として。盗まれたゴヤの幻の名画「ウェリントン侯爵夫人」の行方を追跡して英国諜報機関 MI5 が依頼したのは、ちょびヒゲがトレードマークの不可解な美術商チャーリー・モルデカイであった。彼の美人妻ジョアンナを(グウィネス・パルトロー)をめぐって大学時代の宿敵である警部補マートランド(ユアン・マクレガー)も、嫌々ながらチャーリーの知識と情報網に頼るしかない。

モルデカイは、執事もしてくれる最強の用心棒ジョック(ポール・ベタニー)を連れて、絵画を探す冒険へ旅立つ。じつはその名画の裏には、財宝の隠し先の秘密コードが隠されている。大富豪の娘ジョージナ(オリビア・マン)をはじめ、マフィア・国際テロリスト・警察を巻き込み、ロンドン、モスクワ、ロサンゼルス、へと世界中を駆けめぐる争奪戦が繰り広がる。

幻の名画の行方は？ モルデカイは財宝を見つけられるか？

詩人の名句、絵画の巨匠の名前、ワインやスコッチ、食事やお茶、卑猥な言葉(dirty jokes)のすべてを巧みに操る交渉術、裏合戦をチャーリーとジョックがやってのける。映画は全般的にテンポが速いので、長いセリフの、言葉の彩に隠されたブラックユーモアを理解するには英国文化の幅広い知識がないとちょっと難しい。

映画のプロットは原作者キリル・ボンフィリオリの『チャーリー・モルデカイ1. 英国紳士の名画大作戦』とすこし異なるが、原作を読めば映画に出現したセリフの引用元がわかる。映画を観るにあたって、映画が先か小説が先かは別にして、原作も読むことをお勧めする。

【原作】

Kyril Bonfiglioli. Mortdecai. Penguin Random House UK.

キリル・モルデカイ. 三角和代 訳『チャーリー・モルデカイ1. 英国紳士の名画大作戦』 角川書店



↑ 修復中に殺害された女のアトリエを検分するマートランド警部捕とモルデカイ



↑ 大発見に唖然となる妻ジョアンナを(グウィネス・パルトロー)とモルデカイ



↑ 最強の用心棒ジョック(ポール・ベタニー)に救出されて逃走するモルデカイ



↑ 味方同士の面合わせ、助けるか、ひとりで逃れるか。



↑ ジョアンナを庇って立ち向かうマートランド警部捕



↑ 最愛の妻ジョアンナは夫チャーリー・モルデカイのちょび髭が大嫌い



↑ 謎の紛失絵画ゴヤの名作の信憑性を調べるチャーリー・モルデカイ

↓ 劇場用ポスター



【映画情報】

監督: デビッド・コープ

製作: アンドリュー・ラザー ジョニー・デップ クリスティ・デンブロウスキー パトリック・マコーミック
/ Lionsgate Entertainment, Inc.

出演: ジョニー・デップ (チャーリー・モルデカイ)、グウィネス・パルトロー (ジョアンナ)、ユアン・マクレガー (マートランド)、オリヴィア・マン (ジョージナ)、ポール・ベタニー (ジョック)

『チャーリー・モルデカイ 華麗なる名画の秘密』2014 年製作

2 月 6 日 (金) TOHO シネマズ スカラ座ほか全国超拡大ロードショー

オフィシャルサイト: <http://www.mortdecai.jp/>

配給: KADOKAWA

(C) 2015 Lions Gate Entertainment Inc. All Rights Reserved